

KAGOSHIMA THE WORLD CAFE



カフェホスト 野呂大悟
社福) 永美福社会しらすぎケアホーム サービス管理責任者

ワールド・カフェとは？

What's the world café?

日々繰り返される機能的な会議よりも、カフェで行うようなオープンで自由な会話を通してこそ、イキイキとした意見の交換や新たなアイデアが期待できるという考え方に基づいた話し合いの手法

“IKEN”sky

ワールド・カフェの特徴 1

Characteristics of the world café I

少人数による話し合い

ワールド・カフェでは、1テーブル4～5人という少人数で話し合いを行う

【効果】

3人以下は、話す時間が長く、聴く時間が短くなり、疲労感が残る傾向があり、6人以上は、聴く時間が長く、話す時間が短いため、物足りなさが残る傾向がある。4人～5人は、聴く、話すというバランスが非常に良いと言われている。

ワールド・カフェの特徴 2

Characteristics of the world café 2

席の組み替え

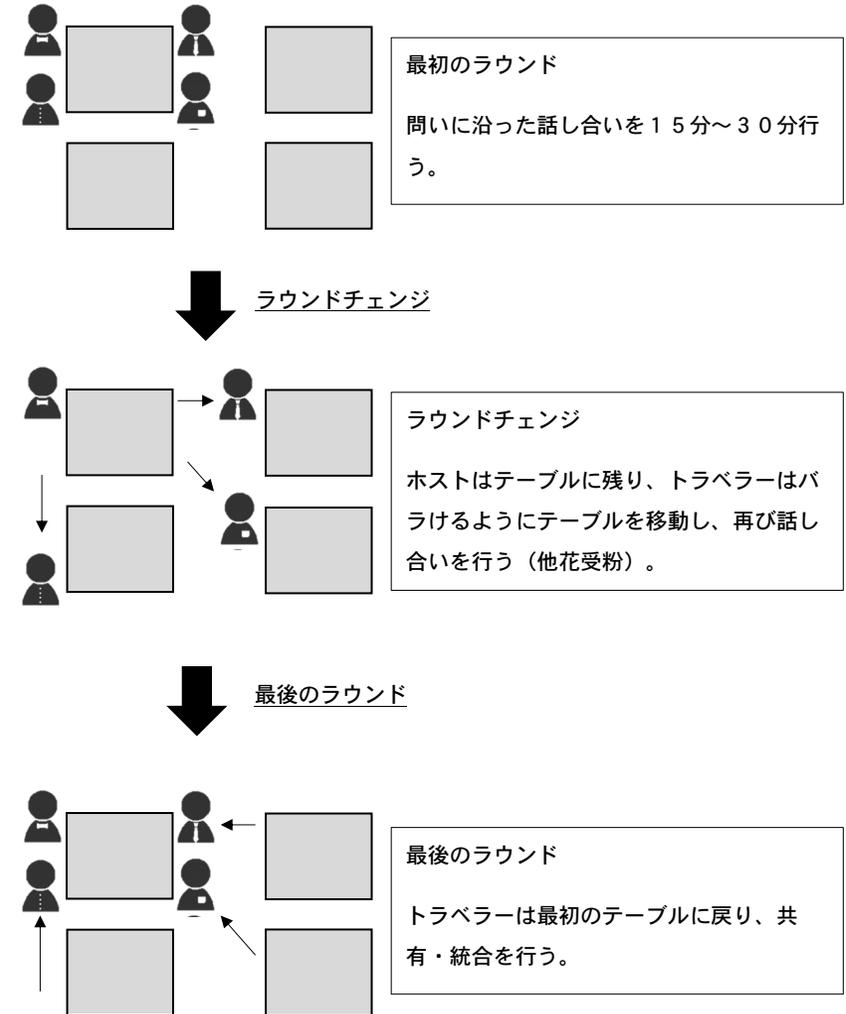
1 ラウンドの話し合いが終わると、テーブルに1人残り、他のメンバーはバラけるようにして席を移動する。

※テーブルに残る人：ホスト

※テーブルを移動する人：トラベラー

【効果】

席を移動して、他のテーブルの意見やアイデアを聞くことで多くの集合知が集まり、あたかも参加者全員と話し合ったような効果が得られる。



ワールド・カフェの特徴 3

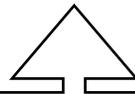
Characteristics of the world café 3

他花受粉

ミツバチは花から花へ花粉を体につけて飛び回る
花粉がどんどん広がる
新たな種が生まれる



最初のテーブルで出た話題を持って移動する
話題がどんどん広がる
新たなアイデアや発見が生まれる



【効果】

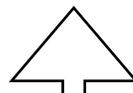
席を移動することにより、多くの人と話す機会ができる。アイデアや新たな気づき・発見も期待されると共に、多くの人と繋がりが生まれる効果もある。

ワールド・カフェの特徴 4

Characteristics of the world café 4

模造紙に落書き

テーブルに模造紙を敷いた状態で始める。参加者が話し合いのなかで、大切だと思ったことや、印象に残った言葉、キーワードなど自由に書き込みながら話を進めていく。字だけではなく、共通点を線で結んだり、素敵だと思ったフレーズには装飾をしたり、絵や図で表したり、と自由に落書きをするような感覚。



【効果】

内容を可視化することにより、共通の認識を得ることや、差異や共通点の気づき、アイデアとアイデアの結合を助けるなどの効果がある。

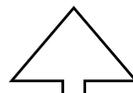
ワールド・カフェの特徴 5

Characteristics of the world café 5

ハーベスト

対話が終わる瞬間に、話し合いの中から創出されたアイデアや気づき、発見などを刈り取り収穫する作業。

取り組みかたは時間や参加者数、目的などにより様々である。例えば、ハーベスト用紙を作成して、「新たな気づきや発見・大切だと思ったこと・得られたアイデア」などを書き込むなど。



【効果】

ハーベストで出た意見を参加者同士で共有することにより、さらなる気づきや発見に繋がり、深い洞察へと導かれる場合もある。

ワールド・カフェの標準的な流れ

Standard flow of the world café



ホストの役割

テーブルは移動せずにトラベラーを出迎えます。2ラウンド目以降は、ラウンド開始後2～3分ほど利用し先のラウンドで出た意見など模造紙も活用しながらトラベラーに報告します。さらには、そこから得られた気づきや発見・アイデアなども話しながら進めていきます。

※ホストは司会進行ではありません。無理に意見をまとめようとしたり、結論を出す必要はありません。

トラベラーの役割

ラウンドが終わると、テーブルを移動します。今居たテーブルメンバーとはバラバラになるよう移動し、ラウンド開始後ホストから報告を聞きお互い内容を共有します。その後、アイデアとアイデアの繋がりに注意を向けながら、それぞれの話題を提供し問いについて探求していきます（他花受粉）。

共有・統合（最後のラウンド）

トラベラーは最初のテーブルに戻り、ホストは先のラウンドまでに得たアイデア、トラベラーは旅先で得たアイデアを共有して統合します。そこでどのような関係性や傾向、意味が流れているか耳を澄ませながら話し合います。

ワールド・カフェを開催する

Hold the world café

ワールド・カフェはこのような目的に効果を発揮する



- ・ 全員に自由に意見を言ってもらいたい
- ・ いつもと違う雰囲気でお話し合いをしたい
- ・ 多くの知恵や考えを集めたい
- ・ 考えや認識を深めたい
- ・ 新たな気づきを得たい
- ・ 相互理解を進めたい
- ・ お互いの関係性の質を高めたい

ワールド・カフェを開催する

Hold the world café

ワールド・カフェの開催までの流れ

開催にあたり運営チームを結成
 テーマ・タイトル
 目的の確認（なぜワールド・カフェを開催するのか？）
 会場の手配
 対象者・参加者数（定員）を決める
 案内文を配布
 問いを立てる
 具体的なアプローチをデザインする（タイムテーブルなど）
 備品の手配
 役割分担（当日の役割を決める）

事前準備

ワールド・カフェの場があるべき方向へ向けて動き出し
 やすいようにプロセスや構造作りに力を注ぐ

会場設営（おもてなしの空間を演出）
 ワールド・カフェ中は参加者が安心できるよう配慮
 ※案内・誘導など
 片付け

当日

参加者がリラックスして、話し合いに集中できる環境
 を心がける

ワールド・カフェを開催する

Hold the world café

問いは大切な要素

★問いを立てるときの留意点

- ・参加者が是非とも話し会いたくなるような問い
- ・主催者がテーマに基づき、目的や意図することを意識して問いを設定する
- ・「力強い問い」を作る

→力強い問いとは？

- ※シンプルで明確な問い
- ※発想を促す問い
- ※エネルギーが湧いてくる問い
- ※テーマに集中して探求を促す問い
- ※これまでの仮説や思い込みを気づかせる問い
- ※理想の状態、新しい可能性を開く問い
- ※より深い内省を促す問い
- ※自分ごととして考えられる問い

- ・オープンな問いにする（イエス・ノーでは答えられないもの）
- ・ポジティブな問いを立てる

問いは、ワールド・カフェを成功に導くための大切な要素です。「どんな場を作りたいか？」「どのような対話が巻き起こって欲しいか？」を目的やテーマから外れないよう意識をしながら考えましょう。

ワールド・カフェを開催する

Hold the world café

問いは大切な要素

【ワールド・カフェの問いの事例】

テーマ（支援することの意味を考える）

- ・ あなたにとって支援するとはどのような意味を持つのでしょうか？
- ・ なぜあなたはこの仕事を選んだのでしょうか？
- ・ サポートする立場を通して、あなたは何を創り上げていきますか？

テーマ（組織内でのコミュニケーションの活性化）

- ・ 私たちはどのようなコミュニケーションを必要としているのでしょうか？それを実現するには何が大切ですか？
- ・ お互いの相互理解を促進するにはどうすれば良いのでしょうか？

テーマ（理想の組織を考える）

- ・ あなたは自身の組織がどんな組織になって欲しいと思いますか？
- ・ そのためには何をしたいと思っていますか？
- ・ 理想の組織とはそのような組織でしょうか？

ワールド・カフェを開催する

Hold the world café

具体的なアプローチ

問いの設定や問いの数
ラウンド数やラウンドの時間
ハーベストから共有の方法
おもてなしの仕掛け

など、テーマや目的から外れないようにし、
意図することを明確にしながら1つ1
つ確認し具体的なアプローチ方法を
組み立てていく。

表1 ワールド・カフェの具体的なアプローチ

要素	パターン	詳細・特徴
問い	1つの問い	最も問うべき問いについて自由に深く探求できる。問いが抽象的なことが多く、切り口は自ら模索する必要があるため、自由度が高い反面、難易度が高い。
	2つの問い	最も問うべき問いの手前に1つの切り口(問い)を提示することで、段階を踏んで探求できる。難易度は下がるが、自由度も同時に下がる。
	3つの問い	最も問うべき問いは最後にして、1つ目の問い、2つ目の問いは、具体的に体験的な話しやすい問いにすることで、段階を踏んで探求できる。話題の流れが固定されるため、自由度は最も低い難易度は低い。
	各テーブルの問い	一つの分野の様々な問いを同時に扱うときに有効。
席替え	最後のラウンドで最初の席に戻る	深まりやすく収束しやすいが、直接交流できる人数が少ない
	最初の席に戻らない	多様な視点と交流は得られるが、拡散しやすい
テーブルの人数	4人	少なすぎず多すぎず、一番リラックスして話せる
	5人	多くの視点は得られるが、一人あたりの話せる時間が少なくなるため、各ラウンド最低でも20分は確保できると良い。
	6人	少人数の良さが薄れてしまうので、人との交流に重点を置いており十分な時間が確保できる場合のみ有効。
ラウンド数	3ラウンド	最低3ラウンドないと、多様な視点と深い洞察が得難い
	4ラウンド	十分な時間が確保できる場合やまとめの時間を設ける場合には、ラウンド数を増やすことで、じっくり探求することができる。
ラウンド時間	15分	十分な時間が確保できない場合、15分に設定する。この場合、テーブル人数を3人にして、一人当たりの話せる時間を確保する場合もある。
	20分	テーブル人数が4人の場合、長すぎず短すぎず、20分が最も最適。
	30分	テーブル人数が5~6人の場合、25分であると良いが、30分だと間延びする場合もある。
全体共有	手挙げ方式	有志の手挙げによる共有。十分な時間がないときに有効。手挙げの前に、付箋や紙に自分にとっての気づきや学びを書き出してから実施する場合もある。
	全員一言共有	参加者全員が一言で気づきや学びを共有。十分な時間があるときに有効。
	グループ発表	各グループから全体に発表する。十分な時間があるときに有効。
トーキングオブジェクト	使用する	話し合いのスピードがゆっくりとなる。特定の人だけが話すことを防止する作用もある。
	使用しない	お互いの配慮が十分にできる関係が既にグループにある時には使用しなくても良い。話し合いの最中に関係性が深まり使用しなくなる時もある。

※文部科学省「男女共同参画推進のためのワールド・カフェ実践手引書」より抜粋